

溶接「焼い」防去機

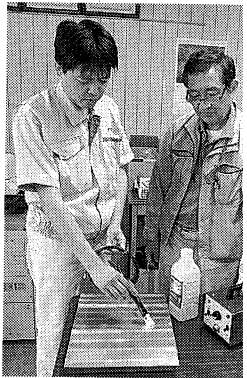
エココスモが開発 小型、価格も半額

ステンレス

特殊塗料メーカーのエココスモ（横浜市）は、溶接時にステンレスが酸化してできる「焼け」と呼ばれる状態を効率的に取り除く電気機器を開発した。写真は、同社は毒性

や刺激性の弱い溶接焼け除去剤を扱っており、組み合わせて使用できる専用の機器の要望が寄せられていた。他社製品と比べて小型で、価格も約半分に抑えた。初年度10

00台の売り上げを目指す。電気式除去機「トリ屋の大将」は生産設備の設計などを手掛ける古屋電機工業（横浜市）と共同で開発した。変圧器など



「トリ屋の大将」専用機器。両者を組み合わせて使えば、電気エネルギーの

効果を加わって溶接焼けを効率的に取り除くことができる。従来の薬剤は毒性が強かったが、同社の除去剤

相鉄HD、純利益最高

4～9月、57億円 開業ホテル好調

相鉄ホールディングスが31日発表した2013年4～9月期の連結決算は、純利益が前年同期比21%増の57億円だった。浜駅周辺に取得したオフ

正リン酸が主成分で、素手で扱うことができ防護に達したという。

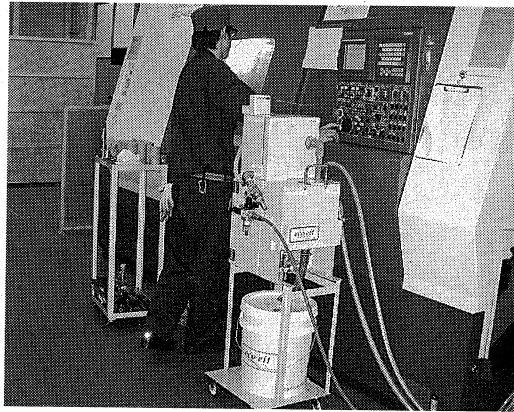
売上高は6%減の1122億円だった。前期までに建設子会社など不採算事業を売却したことが寄与し、営業利益は19%増の121億円と4～9月期の最高を更新した。

永進テクノ

永進テクノ（相模原市、鈴木道雄社長）は金属加工の際に使う切削液を浄化する装置「エコイット」を手掛ける。液の劣化の原因となる油などを除去して品質を保つ。工作機械の刃具の長寿命化につながるとして、自動車メーカーなどにも販路を拡大。もともとは大手重機の下請けだったが、独自製品を武器に「脱

神奈川のエンジン

工作機械の刃具 長寿命化



切削液の浄化装置が売上高の4割を占める事業の柱に成長

《会社概要》

- ▽本社 神奈川県相模原市緑区下九沢1630の2
- ▽設立 1974年
- ▽売上高 4億円強
- (2013年9月期)
- ▽従業員数 20人

「吸水口の位置を定めるのに機械を使わないため、メンテナンスが不要な点も評価されている」（鈴木社長）という。

削液をきれいにするだけでも、顧客企業の生産性アップに貢献できる」と話す。同社はもともと大手重機の切削液の浄化装置は、工場洗浄機の仕事を受注したとき、油の回収に他社の装置を使ったがうまくいかなかった。装置の改良に取り組んだことが、自社製品の開発につながった。

得意先からの受注が中心だった同社が、自社製品の販売に本格的に注力する契機となったのは、2008年の金融危機だ。設備の仕事は10分の1に激減。相模原市から撤退する顧客も出てきた。「設備の受注は仕事が無くなったら終わり。このままでは生き残れない」との危機感が募った。

切削液浄化装置で脱下請け

油が混じると微生物が発生して液が劣化し、刃が摩耗する原因となる。同社の装置はタンクに回収した切削液の表面に浮か

ぶ油や金属粉をホースで吸い取る。ホースの先端に球形の浮きをバランス良く並べ、吸水口が常に液の表面近くに浮かぶようにした。

切削液の交換は工場のラインを停止させるなど大がかりな作業となるため、少々の劣化なら交換しない企業も多い。鈴木社長は「切

足元では大手企業の業績回復が追い風だ。鈴木社長は「これまでは国内での設備投資は必要最低限のものに限られていたが、生産効率を高めるためのプラスアルファの投資にも動き出している」と話す。完成車メーカーそれぞれに担当者を配置して攻勢をかける。

神奈川

横浜支局 0445-2201-22551
川崎支局 044-2221-7793



環境配慮型都市 東芝が世界発信

川崎駅前新ビル開所式 東芝が川崎駅前に戻ってきた。東芝は31日、かつて本社があった堀川町工場（川崎市幸区）の跡地にできた新ビル「スマートコミュニケーションセンター」の開所式を催した。写真、電力や通信などの社会インフラを管理するスマートコミュニケーションセンター（環境配慮型都市）事業の実質本社となり、来春までに約7800人の社員を集める。JR川崎駅西口のラゾ